

科目区分	専門基礎分野	科目名	病理学総論	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第2学期
担当講師	医師、非常勤講師				
科目目標	1. 疾病の原因となる身体的な異常や障害など病理学の基礎について理解する。 2. 人体の構造の実際を見て、統合を図る。				
授業概要	<p>第1～13回 病理学の概要:26H 担当: 医師 (講義)</p> <p>1) 病理学とは 2) 病気の原因(内因、外因) 臓器、組織、細胞とその変化 1) 退行性病変 2) 物質代謝異常 組織の修正と再生 1) 肥大と過形成 2) 再生 3) 創傷治癒と肉芽組織 4) 異物の処理 5) 移植 循環障害 1) 充血・鬱血・出血・血行静止 2) 血栓症・塞栓症・梗塞 3) 体液の循環障害 炎症 1) 炎症の定義 2) 炎症の過程 3) 炎症分類 免疫異常 1) 免疫の機序 2) 免疫担当細胞 3) アレルギーとアナフラキシー 感染症 1) 感染の宿主と防御機能 2) 感染症の治療と予防 腫瘍 1) 腫瘍の定義 2) 腫瘍の形態 3) 腫瘍の拡がり方・転移 4) 良性と悪性 5) 悪性腫瘍(肉腫と癌腫) 6) 腫瘍の原因 先天性異常 1) 形態異常と機能異常 2) 遺伝子の異常 3) 染色体の異常 4) 胎芽期の障害と胎児の障害 5) 奇形の種類 病理検査 1) 病理検査の材料 2) 検査材料の取り扱い方 3) 病理検査方法 まとめと終了試験</p> <p>第14～15回 解剖見学:4H 担当: 非常勤講師 (見学実習) 骨筋系、呼吸器系、循環器系、消化器系、神経・血管系</p>				
看護師国家試験出題基準	細胞の障害(萎縮・変性・肥大・壊死)、生体の障害(循環障害・炎症・損傷・免疫異常・アレルギー・代謝異常・先天異常・腫瘍)、感染				
授業の進め方	視聴覚教材や解剖見学で、視覚的に学習する。				
履修のポイント・留意事項	人体の正常な形態と機能を基礎として、病的状態におこる構造と機能異常の関係や発生機序、診断方法、治療方法と予後について学習する。				
テキスト	系統看護学講座 「病理学」 医学書院 系統看護学講座 「解剖生理学」 医学書院 系統看護学講座 準拠 解剖生理学ワークブック 医学書院				
評価方法・配点	授業への取り組み状況、終了試験にて総合的に評価する。				